農業への参入事例

～農地所有適格法人で参入～

農業参入からさらに事業拡大！

株式会社オキス　鹿屋市：運送業

経営概況

・露地野菜　30ha，果樹　0.5ha，施設　1ha，協力農家（仕入農家）約300ha
・労働力：常時55人

農業参入の動機・事業展開の特徴

○　参入の時期・動機
1　本業の傍ら平成18年に農業・林業部門に参入。当初は原料用さつまいもでスタート
2　農産物を出荷するだけは市況の影響が大きく，また運送経費の課題もある。そこで，加工（乾燥）すれば運びやすく，保存期間が長くなる等，より販路を拡大できると考え，加工に取り組むこととなった。
3　地域を元気にするにはボランティアのような無償の活動では限界がある。事業の傍ら，より発展的な地域づくり，地域活性化に取り組みたいと考えた。

○　農地の確保及び施設の導入
原料は自社生産以外に，地域の農家からも買い取っている。野菜はすべて加工し，食品ロス削減に大きく寄与している。

○　生産技術の習得，販路の獲得
1　輸送コストの低減を図るため，野菜の軽量化を目指し，旬の野菜を原料とした「乾燥野菜」の加工事業を始めた。
2　認定農業者となり自社農場と協力農家の拡大で野菜を安定確保。
3　乾燥野菜，だし，お茶等様々な商品を展開。保存の長期化や栄養価を高める効果もあり，より有利な販売につながっている。
4　大隅半島ノウフクコンソーシアムの設立に関わり，近隣の福祉施設とも連携し，農福連携に取り組む。
5　農産物の生産から加工・流通・販売等を一貫して行い，全国・海外に商品を送り届けるビジネスモデルを構築した。

農業参入してよかったこと，今後の展開

○　規格外の農産物を買い取り，商品化することで協力農家の収入アップにつながるとともに，６次産業化及び障がい者の雇用創出等，地域活性化の一助となっている。
○　加工場でOEM商品（メーカーが自社ではないブランドの製品を製造すること）の受託も行っており，地域の原料をいかした加工品開発の支援にも取り組んでいる。
○　新たに東京等都心部とのコミュニティを構築し，また大隅の本社でレストランや直売所，キャンプ場等の観光業にも取り組むなど，県外から人を呼び込み，かつ大隅のPRにつながる活動を展開する計画。
○　関係人口を増やすため，新たな農業ビジネスモデルの構築を図っていく。

～農地所有適格法人で参入～

堆肥も栽培方法もこだわって，農業を楽しむ！

株式会社エコ・スマイル　霧島市：建設業

経営概況

・水稲・雑穀，露地野菜　　１０ｈａ　　・従業員３人（繁忙期のみ臨時雇用）

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機

１　子供の病気（アトピー）をきっかけに，食生活の改善に興味を持ち，社長が個人で野菜の有機栽培に取り組む。

２　会社で新たに環境衛生部門を立ち上げ，学校給食等の残渣や廃棄草類等を利用したリサイクル堆肥の製造事業を開始。

３　製造した堆肥を利用して，有機野菜の生産に取り組もうと社内の機運が高まったことから，平成９年に農業生産法人を設立して農業に参入。

○　農地の確保及び施設の導入

農地は，知人からの紹介や一部は農業委員会を通して耕作放棄地を借り，自社の所有する重機等で山林を開墾するなどして取得。（現在の作付面積のうち2.0ha は耕作放棄地を再生）

○　生産技術の習得，販路の獲得

１　有機農法の技術については，県の普及指導員の支援を受けながら習得した。

２　生産物はすべて有機農法によるものであり，平成13年に有機ＪＡＳ認証を取得。水稲は黒米・赤米など希少価値の高いものを生産。また，穀類，豆類等多くの品目を栽培することで，年間途切れることのない生産体系を確立。

３　学校給食や有機農産物を取り扱う組合との契約栽培が中心であるが，インターネットや地元の直売所による販売も増加。SNSで情報発信も行い，ファンも獲得。

４　製粉機を導入し，小麦粉やそば粉等の加工品販売も開始。

農業参入してよかったこと，今後の展開

○　本業の強みを生かした事業展開ができ，リスク分散にもつながった。農業は軌道に乗るまで時間がかかるため，本業の余力があるうちに参入した方がよい。

○　気象災害等に悩まされるが，農業が好きで楽しいから続けられる。

○　農業をするうえで，地域のつながりはとても大切。地域の住民や農業者と交流を持ち，意見交換できるような付き合いが必要。

○　自社で生産した堆肥は土を育て，品質への自信にもつながっている。家族の健康から始まった取組が，今では地域内外で有機農産物を待っているお客さんがいる。継続していきたい。

～農地所有適格法人で参入～

地域と消費者にもやさしい循環型農業への挑戦！

源気ファーム株式会社　霧島市：食品関連業

経営概況

・品目：水稲0.8ｈａ，養豚(母豚)20頭，原料用さつまいも２ｈａ，そば５ｈａ，
　　大豆２ｈａ，大麦６ｈａ
・労働力：常時２人

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機
１　平成２１年に参入。１５年目。
２　本業の麹菌の発酵技術を用いて食品残さを家畜用液体飼料に転換する技術（自社技術）を活用し，環境に優しい循環型農業を実践。

○　農地の確保及び施設の導入
１　農地は約１haを所有し，その他は借地。水稲，豚肉はグループ会社のレストランや直売所で加工品として販売する分を生産。また，本業やグループ会社の酒類製造等の原料として使用する原料用さつまいも・そば・大豆・大麦の面積を拡大。
２　国や県の事業を活用し，ハーベスタなどの大型機械を導入。繁忙期のみ本社から臨時雇用を入れるが，それ以外は常時雇用２人で運営できている。
３　施設や機械の導入は，中古施設の購入や借入により，初期投資を抑えた。

○　生産技術の習得，販路の獲得
１　本業の麹菌の発酵技術を活用し，養鶏農家の廃棄する卵を麹菌で加工した代替飼料の生産に取り組み，養豚を行っている。
２　麹菌の発酵技術を活用した飼料は，①麹菌由来の酵素が消化を良くし，豚が健康に育つ，②未消化物が激減するため完熟堆肥が短期間ででき，堆肥舎や畜舎周辺の悪臭が抑制される，③豚ぷん堆肥利用により作物の増収・品質向上につながるなどの効果がある。
３　安心・安全な原料を使ったソーセージ・甘酒などの加工品をレストラン・直売所で提供・販売しており，観光客にも人気がある。県内外にファンを獲得。

農業参入のポイント，今後の展開

○　原材料を自社で生産することで安心・安全かつ品質にこだわった製品を消費者に提供できる。
○　販路が確立しており，本社の状況に合わせて必要な分を生産できている。また，必要な時期に本社から労働力確保もできるため安定して生産が行われている。
○　今後，麹菌の発酵技術を活用し，豚のし尿を液肥化する計画があり，循環型農業の高度化を目指す。

～農地所有適格法人で参入～

目指すは周年収穫！テーマパーク型観光農園！

さくら農園株式会社　霧島市：産業廃棄物処理業

経営概況

・品目：ぶどう　6.0ha，なし　2.5ha，いちご　0.55ha，その他果実12.0ha
・労働力：40人（うち外国人材22人）

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機
1　平成１６年に参入。２０年目。
2　「農業をやるなら，鹿児島で作っていないような果樹を栽培したい」との思いから，きんかん，ぶどうの栽培からスタート。日本一の果樹園を目指したい。

○　農地の確保及び施設の導入
1　荒廃した山間地や高齢化に伴う耕作放棄地等を購入し，整備。
2　自己資金でハウス等を導入。参入後10年ほど経ってから，補助事業を活用し，加工施設，堆肥製造施設，産直レストランや直売所，農林業体験施設等を導入。

○　生産技術の習得，販路の獲得
1　親会社（下田青果）は青果卸業であり，販路に精通。果樹栽培は生産～販売までの一貫経営が重要であり，販売のバリエーションを増やすため，県内で栽培されていない品目の他に，加工品（乾燥物，ジャム，ワイン，ジェラート等）にも力を入れた。
2　県の普及指導員から栽培技術の指導を受けた。地域で栽培されていない品目・品種については試験栽培や国内の産地で研修を重ね，品目及び品種の選定に取り組んだ。
3　令和元年から技能実習生を受入れ，現在は特定技能も在籍。男子寮・女子寮，作業マニュアルを整備し，毎週日本語教室も開催。品目も多く，栽培管理の他に加工，販売など業務にバリエーションがあるため，果樹の多様な技術を学べる環境であり，長く働く人材も多い。
4　産直レストランや直売所，農林業体験施設，ワイン製造見学工等を有する県内でも有数の大型観光農園として，県内外から観光客が周年来場し，地域振興に貢献している。

ぶどうドーム･バベキュー

ワイナリー

霧島さくら館

農業参入のポイント，今後の展開

○　新規で農業を始める場合は，自己資金の範囲で取り組んだ方がよいと考える。品目や品種の選定は時間がかかるため，自己資金の範囲であれば継続の可否を判断しやすい。規模拡大や加工等に取り組む段階で補助事業等を活用した。
○　現在の面積，品目で周年で収穫を行う計画である。グリーンツーリズムや国内外の観光客呼び込みに力を入れ，地域一体となり，観光と農業を盛り上げていきたい。

～農地所有適格法人で参入～

建設業のノウハウを生かしつつ，農業と２本柱で２１年目に突入！

株式会社　本産業　南さつま市：建設業

経営概況

・品目：葉たばこ　かぼちゃ　合計　4.5ｈａ　・労働力：常時３人

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機

１　平成１５年に参入。２１年目。

２　昭和４３年に牛乳の製造，配送・販売業を創業。その後，建設業（本建設）を開始。乳業が転換期を迎え，建設業の閑散期に雇用を維持するため，農業に参入。

３　参入当時，価格が安定していた葉たばこの生産を開始。

○　農地の確保及び施設の導入

１　農地は全て借地。農業委員会や農家に直接交渉に赴き交渉し，機械等の移動のロスが少なくなるよう，農地の交換などをして集積した。

２　機械等は自己資金で購入する他，引退する葉たばこ農家から中古の設備や機械を購入。

○　生産技術の習得，販路の獲得

１　平成１５年，葉たばこ生産開始。平成１８年，裏作でかぼちゃを導入。令和２年から太陽光発電事業も開始。

２　同じ品目の先輩農家から技術指導を受けた。

３　葉たばこは，JT（日本たばこ産業）と全量契約のため，Ａ品率向上に専念できる。

４　農業機械の操作やかん水設備の設置などは建設業のノウハウを生かしている。また，本業で使用している大型トラックを設備や機械の移設・運搬に使用することで，投資の節約と規模拡大ができた。

５　農業は長男，建設業は次男が代表を務め，役割を分担。繁忙期には建設業の社員とリタイアした社員を臨時雇用できるため，労働力は安定して確保できている。

６　葉たばこと地域の特産品であるかぼちゃを生産する担い手として，地域活性化に貢献。

農業参入のポイント，今後の展開

○　建設業と両立するには，無理のない計画，運転資金の確保が重要であると考える。また，農業は好きでないと続かないし，臨時雇用への指導も丁寧に行わないと良い品物ができないと感じる。

○　建設業の仕事が減少した時を見越して，農業にもしっかり投資した。現在では売上げを確保でき，建設業を引退した従業員の再雇用先になっている。今後も継続していきたい。

～農地所有適格法人で参入～

堆肥製造から６次産業化，地域に根ざす企業へ！

クリーンベースちらん株式会社　南九州市：建設業・堆肥製造，販売業

経営概況

・ごま，なたね等　３ｈａ　　・労働力：常時１人

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機

１　建設業を行っていたが，平成２年から町内で大量に発生する畜産廃棄物の処理事業にも取り組み，堆肥の生産・販売や堆肥撒布の作業受託を実施。

２　従業員の周年雇用と，鶏糞堆肥の利用拡大を図るため，平成19年に「クリーンベースちらん株式会社」を設立し農業参入。

３　堆肥の販売先である金峰ごま生産組合の組合長から，ごま栽培を勧められ，ごまの生産をスタート。

○　農地の確保及び施設の導入

・高齢化により発生した地域の耕作放棄地を解消し規模拡大。
・茶農家との労働力補完やパートの周年雇用，福祉施設からの障害者受け入れ等により労働力を確保。
・平成25年に６次産業化整備事業を活用し搾油施設及び直売所を整備。

○　生産技術の習得，販路の獲得

１　金峰ごま組合の組合員となり研修等に参加し技術を習得。その後，なたねやつばきの生産の他，地域高齢者からつばきの実の買い取りを行う等，地域の資源にも注目しながら拡大。

２　自社で製造した堆肥を使用することで，地域の資源を活用し生産された農産物であることに加え品質や安全性にも繋がっており，付加価値となっている。

３　製品は，スーパーや道の駅での販売のほか，インターネットでも販売し，県内外の顧客を獲得。また，ふるさと納税の返礼品として地域の特産品の一つにもなっている。

農業参入してよかったこと，今後の展開

○　地元の基幹産業である農業に参画して，耕作放棄地の解消や６次産業化の実践，福祉施設の雇用創出等に取り組み，地域活性化に貢献している。

○　会社内での役割分担ができており，支えあってこれたので現在まで続けることができた。今後，農業部門は規模を縮小する予定だが，継続して取り組んでいきたい。

～農地所有適格法人で参入～

原料の自社生産で「安心・安全」な製品作り

上原産業有限会社　南九州市：食品製造業

経営概況

・大豆８ha，麦１ha，原料用さつまいも50a　・労働力：常時１人，臨時２人

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機

さつまいもの澱粉製造を行っていたが，契約農家の平均年齢が高く，将来の原料確保が困難となる恐れがあった。そこで，原料を確保するため，自らさつまいも栽培を開始。味噌や醤油等の製造も行っており，国産原料を確保するため，その一部を自社生産できるよう平成20年に農業生産法人を設立。

○　農地の確保及び施設の導入

・耕作放棄地を探し，農地の所有者を調べて，直接交渉するほか，農業委員会に相談しながら借地面積を増やしていった。（所有する農地のほとんどが借地）
・取引農家や近隣の高齢農家から貸借の依頼があり，次第に規模拡大。

○　生産技術の習得，販路の獲得

１　栽培研修会等に参加し，取引農家からも技術を習得。
２　自らも栽培することで取引農家との信頼関係が構築でき，原料の安定確保につながった。
３　農業機械は中古を探す，作業委託するなどして投資をしすぎないよう工夫。
４　現在，澱粉製造は終了したが，取引農家からの要望もあり，さつまいもの生産及び集荷，苗の生産受託は継続。
５　味噌や醤油等は，県内のスーパーやインターネットでの販売を実施。自社生産の原料を使用したブランド「農之蔵」を立ち上げ，新たな商品展開を実現。

農業参入してよかったこと，今後の展開

○　農業参入の際は販路を確保してから参入した方がよい。
○　農業部門と製造部門で役割分担し，それぞれに専念し，また必要な時は応援にいく。
○　自社の原料となる農産物の生産に取り組むことで，原料の安定確保や製品の付加価値を高められた。
○　高齢農家や離農者の農地を引き受けることで，農地の遊休化を防ぐなどの地域貢献ができた。
○　原料から生産することで，製品に対する愛着と品質の自信につながった。

「福祉と農業」を繋げ，地域を支える！

合同会社グッドフィールド　阿久根市：就労継続支援Ａ型事業所

経営概況

・品目：柑橘類，さつまいも，じゃがいも，水稲，ブロッコリー，施設野菜（なす，いちご等），水耕栽培（小松菜・リーフレタス）　自社農場22ha

・労働力：常時23人

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機

１　平成３０年に参入。７年目。

２　経営主夫婦は元養護学校教諭。妻の実家が柑橘農家であり，養護学校の生徒に収穫作業体験などを実施。その人の特性に合った作業や，特技，スキルに応じた仕事や環境を整えれば障がいを持つ方も農業ができることを実感。就労継続支援Ａ型事業所を設立後，農業へ参入。

○　農地の確保及び施設の導入

１　農地は全て借地。

２　水耕栽培も実施。天候，病害などの影響を受けにくく，土づくりの手間もなく，短期間で安定して生産できる魅力がある。初期投資はあるが，入所者が働きやすい環境を作ることもできる。コストや設備の機能など，資材メーカーや実際に導入している農場へ視察し，導入した。

○　生産技術の習得，販路の獲得

１　品目はみかんからスタート。年間通して入所者の作業があるよう品目の組み合わせ，作業のバリエーション，作付け面積を調整している。

２　ネット販売，ふるさと納税返礼品など複数の販路を確保するとともに，県内外の農家から販売方法や販路開拓（輸出も含む）の情報収集を積極的に行っている。

３　自社のさつまいもを干し芋に加工するなど，６次化にも取り組んでいる。令和６年に鹿児島市天文館にサツマイモスイーツ専門店「3515(さんごじゅうご)」の経営を引き継ぎ，焼き芋ブリュレなどを販売。入所者の新たな就労先や，農産物のＰＲ，ファンの獲得にもつながっている。

農業参入のポイント，今後の展開

○　水耕栽培は，年間を通して計画的な作業ができるので，農業の技術や経験が少ない人でも取り組みやすいと思う。

○　入所者が安心して作業ができるよう，年間を通して，作業のバリエーションがあり，１人１人の特性や好みにあった仕事・環境づくりを心がけている。

～農地法で参入～

美味しいものを鹿児島から！自信をもって生産・販売

岡山フードサービス株式会社　南九州市：食品卸売業

経営概況

・品目：養鶏　常時9,500羽，茶　53ａ，山椒　40ａ
・労働力：40人（うち外国人材10名）

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機
１　平成２５年に参入。１１年目。
２　参入当時，食品卸売業として30年以上。飲食業，食品加工業も展開。食材は国内外の現地に赴き，仕入れている。将来，卸売業がなくなる可能性と，安心・安全な良い食材を自ら生産・加工し，消費者へ届けたいとの思いから本社直轄事業として参入。

○　農地の確保及び施設の導入
１　農地は全て借地。
２　平成２５年に第一農場を知覧に設置。自社生産を試験的に開始。品種，エサ，飼育環境などを５年間研究。収益性も確認し，平成３０年に第二農場を新設。
３　平成２７年，南九州市と立地協定を締結。
４　鶏糞の堆肥化を使用した，循環型農業の実践を目指す。令和2年から南九州市から農地を借上げ，茶，山椒の栽培を開始。さつまいも，柑橘の試験栽培も実施。

○　生産技術の習得，販路の獲得
１　鹿児島で出会った肉用鶏に感動し，５年の試行錯誤の結果，長期独自肥育の「さつま極鶏 大摩桜」(さつまきわみどり だいまおう)をオリジナルブランド鶏として販売。
２　農場内の処理場で一羽ずつ手捌き解体しパッケージまで行う。令和元年に第一農場の隣に生産農場直売所をオープン。
３　鶏糞の堆肥化は地域の提携企業に委託。鶏糞を使って生産した農産物は農薬や化学肥料を使わない栽培にこだわり，一部は「大摩桜」の飼料として活用予定である。
４　関西エリアを中心に販路があるため，県内の農産物の販路支援も取り組んでいる。

農業参入のポイント，今後の展開

○　品種，飼育方法の研究とともに加工，市場での評価及び販売テストを実施。そのため，参入してから黒字になるまでの期間は長かった。
○　消費者に対し，自社ブランドの品質・安心・安全へのこだわりと美味しく食べてもらえる加工品を提案できる魅力がある。
○　今後は循環型農業及び他品目の栽培にも力を入れ，鹿児島の美味しい農畜産物生産を持続させていきたい。

地域の農家・法人と協力！農福連携の事例

ライズ株式会社　鹿屋市：福祉施設（就労継続支援B型）

経営概況

・キャベツ 5ha，さつまいも 0.5～1ha，ピーマン30a（ハウス），その他野菜 85a
・労働力：常時４人（技能実習生２人）と就労継続支援B型「咲楽工房」の利用者

農業参入の動機･事業展開の特徴

○　参入の時期・動機
障がい者の就労の場を確保するために平成28年に参入。

○　農地の確保及び施設の導入
・農地は，親戚や農業委員に相談し，福祉施設利用者（以下，利用者）が通いやすい近場の農地からスタート。
・近隣農家からの交流・理解が得られ，地域で離農するピーマン農家からハウスを使わないかとの相談があり譲り受けることができた。

○　生産技術の習得，販路の獲得
１　平成29年に県が主催の企業参入塾や研修会で情報収集を行い，福祉施設周辺の農業法人（有限会社サンフィールズ，株式会社オキス）へ訪問し，販路を確保。
２　農業法人から出荷先及び施肥設計や品種選定，資材等の技術支援を受けながら農業に取り組んでいる。
３　出荷先の一部は食品製造業であり，納品する作物は難しい選別が不要であり，利用者も安心して選別・出荷作業が行える。
４　利用者が作業しやすい環境のため，福祉施設周辺の農地を確保。農作業のなかで，近隣農家との交流を大事にし，地域農業の担い手として新たに農地も任せられた。
５　大隅半島ノウフクコンソーシアムに所属。農福連携の情報交換や理解を広める活動を行っている。

農業参入してよかったこと，今後の展開

○　農業部門での売上げを確保できている。
○　利用者は農作物を育てる，出荷する喜びを感じていると思う。
○　農業参入の際は販路を確保してから参入した方がよい。また，福祉施設周辺の農業法人の情報収集や力を借りることも重要。
○　大隅半島ノウフクコンソーシアムの「小いもプロジェクト」にも参加。農福連携の理解をより広めていきたい。